

武江年表

七

伊予
760
7



とつる角力取行る○十月より始り大川筋より外川へ河津流中洲築地
取拂せし翌年より元の水面上なる○十二月廿日夕より夜へけと再甘
露降○深川寺町法雲院不動尊流石出へ祈禱の者あり

○本所松代町本花火除く成り代地深川より指戸田東女正殿は屋敷
の地をとりて○本佛の開帳年々小盛ありて敷石ありしと寛政より
享和迄のり委しく流せる物せり高貴敷きと次編み洋あるべし

寛政二年庚戌

正月廿一日本所松代町より出火砂村百姓屋連焼る○三月九日画人劉安
生卒 号秀山麻布 ○三月十日下谷稻荷社祭礼産子町より出へ遺物出
る本所の時ハ花子の流度より本柄流の
警急とせしむるに同例にせし後中絶せり ○永代寺より京師大佛の内井才也開帳との
る境内見せ物不主生程言せ出火廿二日行れてあまふ於てもる巻物と一封印筒

の並車も酒宴の舟ふられせり○神奈川浦宿より世青江戸より開帳

西不祥天宮なり ○八月十日野栗川院典信卒 卒 ○八月廿三日前南府点者

川柳卒 俗評せり方々てねを信りて集成柳栞と号し教諭を撰み今ふは流るるは人の

孫傳川柳五世及び柳栞の后輯年々不揮せり按るる小室曆の以武出川といつ

能遊の白集ありて俗傳を述る川柳もこれより愛せりとのとあり

○九月六日儒師山中天水卒 卒 ○十一月廿七日夜大地震

○十月琉球人來聘 正役宜博 藩卒のりて留士をえて諒る 宜博王子

○十一月二日夜甘露降 ○津田回春成 武江の雜り回春の書あり

○琉球評判 森島中良著 又朝鮮談も刊せり ○磁器焼焼屋始る

同 二年辛亥

○正月十五日儒師平次旭山卒 卒 ○二月十日より五十日の間儀

草寺觀世音開帳 ○市井の法令を改るは坊間の費用を減し核令始る

白旗卒

平二才品川
海晏子小暮氏

○九月廿七日儒師松田拙齋卒

長茶麻布
天竺子小暮氏

○神田明神祭祓禊年々より沖産あり也一始り

享和より輕業あり後文化
年中より彌りあり

附録六

三組と成る

年番を以て初む一をより一を以て出ひのし一が
後年以て初む一をより一を以て出ひのし一が

○十二月九日回向院一命せられ永代

ちみおのり 海傍流死の者施餓鬼修りあり ○十二月十四日十五日神田社年の市

後京市一降るものあり
後年廿日廿日小改む

○十二月 日下谷火事

深川側傍石物の荒るは九月言彼の
後修り

寛政四年壬子 二月間

二月初午の日芝日以谷稲若祭祓禊子町より出づ練物を出以 ○二月七日

麹町火事 ○壬二月六日詩人安達文仲卒

名條早流の三の痛
志平子小暮氏

○四月の頃より米價

芝揚花 ○五月十四日新井白蛾卒

平二才品川
易樹小暮氏

○護國寺にて秋又二十世番

親世音閣帳 ○六月十音山王河系礼附系三組と成る

神田小同トされは此處あり
中根木町外武下より出づり

○六月餅鳥極夜側一町會所敷を建ふる是迄ハ大的場あり

○六月十八日亥刻光物西南より東北へ飛大さき星の光と一 ○七月廿一日飛戸

梅屋敷の梅舊根焼失はるより江戸砂子書入といふ事亦あり

○七月廿一日南大風已上刻麻布并橋より出火就土今井谷赤坂青山比谷

會遠麹町番町飯田町小石川河門小川町三傍稲若の社辺延焼亡 此後

番町麹町の裏より火除地出来る ○牛込赤坂通西側ハ山下

何某屋邸ありは餘ハ植木極夜極夜にて在りは此時麹町の善國寺と肥田

何某の邸小あり後又以後番町家又改まり ○八月十二日画人松林山人卒

大川より ○西本願寺泮堂再建

能州和方山掛中より寄進者若三十二又五八人系列の
たをを指末豆代あり小建り此は建方之といふ所

○谷中感應寺 今年 五重塔昭和九年二月廿九日焼る

今年再建あり ○十一月七日儒師千葉若園卒

名之之孫後乃重門
千石木徳澤子小暮氏

浮世繪師勝川春章卒

淡島西福子小暮氏号旭朗井非優清像を画く多し多あり門人
喜好英其妻美山喜徳喜林喜遊喜玉空勝教あり

○十二月十八日下総八幡宮社内塔の古樹を堀穿り小古鏡をえり三尺
深り三尺寸元亨元年酉十二月十七日別當如田と彫る

寛政五年癸丑

正月関東地震○麹町若小寺去年火除の為地を石上りれ神樂坂小代地を
あつりけるが今年二月普請落成して廿七日毘沙門天^{せんざ}遷座あり○二月淺草寺
奥山小寺より杉柵を栽る○三月六日より茅場町茶師境内を房^{むら}洲鏡
浦西行寺西行法師像開帳○橋場神明宮内天満宮開帳○五月より
九月中を江戸霖雨大川出水○五月廿日書家荒木吳江卒 号平水丸山
長妻小葉氏
○九月先達て魯西亞^{ろしや}漂流して帰朝せし伊勢白子の船政^{せんざう}幸太史磯吉江
戸^へ一^ま束^す 天明二年十二月強風神を疑ふ遠く漂流せしといふ故吉の今年廿八日一が船政の故
程あり死り幸太史は今年十二月版回町の所某園ありて後吉妻を傷りて終る
○十月廿五日湯島松平雲外侯別館より出火神田色本町石町堺町

幕府町芝居日本橋辺追焚焼す○十二月柳本寺下町左の内須田町

二丁目小柳町平永町北例を取拂り是外神田小代地を賜り明地を

成後小叔藏を建らる 町令所叔藏の
建坊あり ○月日儒師原敬仲卒 名恭胤雙柱の二
男あり又雙柱名ハ

諭号尚庵明和四年九月廿日卒月と小柳邊吉祥より作
的泉寺小葉氏小漏せし故く小葉氏ハ

同 六年甲寅 十一月間

正月十日未申刻麹町五丁目秋田屋何某といふ酒屋より出火烈風より

山五所社永田馬場霞が関虎所の外橋田邊徳彦藩邸救字敷焼幸橋

所門焼宅宿下日蔭町新橋芝新橋産仙臺舎津家小一山焼亡せり

○正月昔徳人金羅卒 字帰正堂也
小葉氏 ○二月廿八日儒師吉田子方卒 根
卷

吾性也 ○三月幸橋所門外兼房町和泉町船泊町橋本町伏見町若右

衛門町久保町太左衛門町小の内火除の為町家を取拂ひ畏地とせしれ

島崎の所を以て武家地とて在るを非(後)されては所(代)地とあり

○川口善光寺如来園地系諸羣集して川口の渡(船)渡り怪家入(寺)あり

○四月二日亥半刻古系江戸町武町より出火一廓焼亡 仮宅田町聖天町の者 死町未(出)

○四月十七日青山梅窓院主著山和尚寂 詩及び書 ○四月廿七日儒師菅

野子徳卒 名義直丸山 本妙寺小乗 ○六月十日儒師街里里卒 信堂寺小乗 ○八月十九日

國学者林滿島卒 林和助号林居士備後院小乗 男とそ枝とりの文化五年卒 ○秋卒所之橋溝に内匠製

造るて橋杭せしめて拱(う)を奇巧あり 文化よりてえの 如く橋杭をま ○十月晦日舟人伊右松

軒卒 号倚松庵者山 梅窓院小乗 ○十一月三日子刻大地震 ○十一月四日象刻藏六居

士卒 号所居山小乗 ○十二月廿九日狩野永徳高信卒 卒年深川 浄心寺小乗 ○江戸地誌

多巡折所せ定む は地不の極多の 築子記あり ○四神地名録写本成 古本新黄薇山人編輯 土郎の名記あり

○出羽園より大童山文太郎出十一才肥満して廿二歳日なり角力を取(一)が年

長とて弱くあれ ○當道文記録成 写本一冊 一冊并大社後 浮島深草若

寛政七年乙卯

正月九日谷風棍(こ)助終 は十才才仙基(華)に記あり 見録あり一(角)力元あり ○正月十日西小大風市谷折丁

より出火野焼多し ○二月十三日書家細井竹園卒 名庸松次并八十才あり 浅草名取寺小乗

○三月十八日より二十日浅草寺親世音園地風雷神門再建成る二月十日(新)を安(ん)直(ち)以

○六月七日儒師清水江東卒 卒年大下谷の商家大政経 名義とりの人(之)著述あり ○六月十五日

夜久雷廿六(不)落ると云 ○七月八日儒師市川雀鳴卒 名匡松次門 卒年七才 西澤光治寺小乗

○七月十三日星月を費く ○八月七日梅柳軒重明卒 松修因主水とい小上州 松井園の産第の院月

師の門人ありて和名あり者あり寿七十三 谷中天王寺中(院)あり小乗 ○八月十五日深川八幡宮を秋(子)町(と)り

出(練)物未(出)と云 ○九月十日儒師三浦瓶山卒 名衛奥松左云傳中(不)中の 徳寺寺小乗(男)と吳山とい小

○秋凶化米穀價登揚以 ○九月廿一日青山久保町熊野権現祭礼産不

所より出、練物を出せ。○十月十日太田大洲卒七十才名、徳元中、所大徳也、集

寛政八年丙辰

正月、白牛酪、愛弘の事を命、享保中、房州嶺岡、小白牛七、放養せ、めて白牛酪、
判法法を命せ、ら、僅小三、所、
七、千餘、取、お、い、う、依、て、投、解、の、乾、酪、を、製、せ、り、め、て、賣、く、世、人、を、救、ひ、ぬ、
所、恩、澤、あ、り、う、る、に、
こ、そ、寛、政、壬、子、丑、月、桃、井、源、實、白、牛、酪、考、一、卷、を、撰、く、持、お、り、す、

○二月、谷中、感、應、寺、毘、沙、門、天、開、帳、○夏、先、口、新、田、町、祇、子、帳、○芝、泉、岳、寺、

釈迦八相曼荼羅、開、帳、義、士、の、遺、物、を、見、せ、む、○四月、十二日、狂、哥、師、兼、楊、菴、

光、亭、松、壽、寺、古、佛、の、約、迦、○六月、九日、有、越、明、神、系、礼、神、樂、を、演、じ、出、練、物、の、

事、お、ち、し、う、其、後、中、絶、す、○六月、十五日、書、家、澤、田、東、江、卒、六十、才、源、鱗、号、也、
山、人、松、文、三、并、こ、の、小、末、を、

○九月、卒、新、小、古、銅、吹、立、不、建、つ、○十月、四日、松、軒、軒、淵、名、貞、雄、若、卒、八十、才、古、吏、若、く、又、江、戶、地、理、の、古、編、集、也、
江、谷、戒、行、も、小、菴、以、

○十月、琉、球、人、來、朝、正、使、大、宜、見、五、子、

副、使、安、村、親、方、柴、野、彦、輔、琉、球、人、
草、法、結、答、あり、○十二月、六日、儒、師、黒、沢、雄、岡、卒、名、萬、新、松、右、伴、
八、十、四、才、

同 九年丁巳 七月望

二月、廿八日、特、野、洞、春、卒、名、長、信、上、世、
後、小、院、小、菴、○春、三、田、魚、藍、親、世、若、若、帳、○和、忍、江、

の、島、舟、才、矢、開、帳、江、戸、より、請、人、多、し、○四月、廿七日、画、人、三、輪、花、信、齋、卒、名、以、
在、榮、

牡丹、尚、菜、小、舟、て、候、く、し、物、群、集、せ、り、○六月、二日、程、宗、師、并、小、戲、作、若、若、の、

席、九、卒、若、若、三、并、と、云、倫、若、若、の、
山、谷、正、法、も、小、菴、以、○橋、の、異、名、を、考、ふ、事、流、行、橋、品、若、若、若、若、若、若、
と、云、之、持、以、す、

○七月、六日、大、雷、所、く、小、落、り、○七月、十日、中、村、佛、庵、景、連、中、村、佛、庵、景、連、
書、を、著、く、す、

そ、れ、子、宗、錫、を、伴、以、流、行、せ、り、新、世、言、(諸、)水、船、中、大、川、の、辺、に、い、り、り、水、面、に、

矢、滿、宮、の、木、像、を、均、て、享、和、元、年、深、川、法、禪、寺、に、安、置、け、り、旭、天、山、宮、
と、稱、以、○七月、廿日、

吉、実、若、真、野、是、為、卒、若、若、三、并、と、云、倫、若、若、の、
翻、阿、の、信、も、小、菴、以、○十月、町、火、消、人、足、の、内、婚、之、二百、七、十、四、

人、の、頭、取、を、命、せ、り、○十月、廿二日、若、若、家、法、後、郎、向、佐、久、町、の、木、の、

人、の、頭、取、を、命、せ、り、○十月、廿二日、若、若、家、法、後、郎、向、佐、久、町、の、木、の、

より山火某所堀の辺より大川を越津川六宮堀八名川所へ飛海辺新田本
場追焼亡○十一月廿二日武器古実若林系香山卒 名長俊梯一学各帝天皇中
了俊も亦葬以

○十二月十八日醫師宇田川玄隨卒 名晋号樞園世系中
玄安院又葬男を玄真と云 ○十二月廿一日他人

妍富津富卒 卒七才今戸
若林系香山 ○東海道名新圖會六冊梓行 林里と難富若
名家合画

○和漢年契一巻梓行 抄別の人高祖著大率小本二初あり又寛政十二年抄丹の
人小く惠光子編和漢年代要一巻と梓行す

寛政十年戊午

改曆領仍寛政曆と号○二月十九日俳人小菅宝馬卒 一日ふ在十日身終り
宝馬と号七十二才

○四月金剛二十六森英秀卒 二十九年
号清秋 ○六月朔日小川沖より 糸島
縣

上り長九郎と云々大餘あり 此以何日もの本号ありや彌如來も小園結あり
所境内山の上ふ筑籠を以て大佛の像を造り相由

○六月廿二日画人梅里山人卒 名西洲五郎あり
中の名成松も亦葬以 ○七月より深川新大橋

の向小粉花を建てる此所の所家牛込音所の辺あり代地をりある
今の牛込岩戸町之○九月一日儒師若田望敏卒 卒八才各年大難も亦
葬以

○九月十一日将野永賢恭信卒 卒九才各年
号敏月菴

○十月廿九日初夜より星多々飛ん々夜半よりみ至りて空の氣
毛一面小雪の降るる如く見えし之○十一月三日金星の飛ぶる如く

○儒師岳麻谷卒 名之信稱号麻谷
七十二才月日不詳 ○十二月十日狂言師朱樂菅の卒 六十二才
林山崎

○十二月十日狂言師朱樂菅の卒 六十二才
林山崎

○十二月十日狂言師朱樂菅の卒 六十二才
林山崎

○十二月十日狂言師朱樂菅の卒 六十二才
林山崎

○十二月十日狂言師朱樂菅の卒 六十二才
林山崎

○十二月十日狂言師朱樂菅の卒 六十二才
林山崎

○十二月十日狂言師朱樂菅の卒 六十二才
林山崎

同十一年己未

正月廿九日之河町より山火神田辺町極焼亡此後鎌倉河岸

町迄七十間通り縁少げあ成る同河岸被還度なる○二月十五日三圍稻

前開橋 奉納造り物ありわたり日本橋白木極より天雲城あり清く牛車本賣の本偶を
ねむ開橋の飾物も亦つくの始あり亦清華を築きりおひびき

毎月晦日上野為大師遷座の時茶詣羣集はる事寛政の以り始まり
 此時代名家△儒家山本北山龜田鵬齋・細井平洲・服部栗秋・柴野栗山
 古賀精里・杉井白蛾 易術小 △画家寫字若谷文晁・董九如・長谷川雪嶺
 鈴木芙蓉・森榮彦△狂歌師・唐衣橋洲 尚左堂俊満 尚左堂俊満 又得世倫 狂言堂
 真歌・六樹園版盛・蜀山人・芍菜亭長根△浮世繪師・寫文齋榮之
 勝川春好・月喜英 九植母 東洲寫字樂・森多川哥磨 北尾重政・同
 政傳 京傳 同政美 蕙母 窟俊満 尚左堂と号 葛飾北秋 狂言の格物讀本 哥磨
 及堂純鏡・榮松ぬき ちんき 榮佳母春童・田中益信・古川三紫・堀等琳
 金長 まろ 狂言或名弘の格物小瀬人刷工の巧をつとけ花簾を極する事以
 時代より盛なり○奥尾庵の枝衣小榮学医の始祖とせらる中川須菴志保
 子 おと 果さばは後奥平彦の侍医前野良澤 号榮化 小半ひさきり中門

人・松田元伯・宇田川玄隨・桂川南周・大槻玄澤 おの 大お苦む
 此道なれりといふ○浅草寺隨身門前の茶店輕波屋のおきだ茶研堀川高
 島のおひさ・芝林明子・日兼本のおちんこの三人は女のおえりて落時といふ
 ちんき おん 小想入引もさびに○吾京府屋の名妓花扇老母お孝んのおえりり来船
 の清人費時湖傍陽小ありてこの孝娼妓が事をすこれに賛入る始あり
 曲亭の おん 雜の記小載しり○婦女のたがさうてびそ中り始む 東洋中始り
 ○堆茶深衣類はるる○鞘画の戲ははるる○いつの以り始りし西が東
 小湯島の牡丹屋太右衛門が別荘ありて花櫃小紅白の牡丹英を飾るそふ
 盛の以貴族羣集せり 文化の始小 ○酒樓は於て書画會を催はるる此以
 始 近代中 近江守の名家書畫は書画會の寛政の以豫會の おん 兎坐の玩ふ切り組燈
 籠儉の上方向りの物へまね始り系おん 生洲大坂のては茶の圖杯を重振せり

武江年表卷之七

寛政享和の以茲毎政美多く画き又此舟も續ひて画りり文化ふりり
奇川國本豊久以伎小工風を以て教多々画き出せり其持今よりり
年々樹出せり○人物を戦山水を解茶象を四角に画くの哉は行り
書翰筒を新を携ゆ
商より寛政の末より始り
○寛政十一年の暮より王子村料理屋海老や扇屋に
せりきあり○
或はありて和安永の以り世上風俗の淑慝男女の情態を以て編輯多々此を
大世より初推のむが人専ら是を弄び功徳を備へ清日の冷く多々不登り寛政より
是を弄ぶやめ勸懲を旨とて多く他是りその内善惡玉のさう一珠もはれり

享和元年辛酉 二月五日改元

正月十四日俳人探茶菴平山梅人卒 大久保泉福 ち小暮氏 ○二月十八日画人小山寒巖
卒 名孟照 橋場 法源ち小暮氏 ○二月二十日茶人千柄菊且卒 西河菴町の坊にあり 深川法禪ち中納言院ち小暮氏 ○二月十七日一刃
流劍術師中西忠太卒 根岸菴の坊にあり 史傳碑文不記せり ○三月十八日より十五日の月
暮る親世香閣帳○龜戸天満宮閣帳○目黒不動尊閣帳○四月より

深川法禪寺より武州熊谷寺孫院如來蓮生像小室帳○五月四日天雷不

三落り○五月十日日官医多紀永壽院元徳卒 七十才名元惠号藍暖 平塚城官ち小暮氏

○六月十二日板橋扇板橋水車の下より奇魚を獲り長五尺一寸横二尺
寸四厘有り僅小三寸餘巨に微目少て惣身色栗のこくく是は斑あり

○六月十六日より回向院より孫家法源寺新述如來閣帳○六月廿九日儒
師細井半柳卒 半柳名名植氏号如來林志三郎 淡草寺町又岳院ち小暮氏 ○九月十八日聖人蘭文森文祥

卒 小越の人の淡草寺教の中坊長ち小暮氏 男を蘭院交良と云医師あり ○九月十八日金雕之岩本昆寛卒 ち十八才 孫志三郎
○孝義録卒巻板仍 學問所所板仍 ○十月十九日夜元版田町焼亡

○十一月廿五日夜神田蟬燭町より出火十四町新焼す

同 二年壬戌

二月廿五日若神九百年所忌○糺町平河天満宮閣帳○二月廿八日より柏木

村田照子業師如東開帳○二月より四月おきう以邪流石綾民(は救米流)を下りあふ俗不知七民と云八百屋 ○三月八日より本下川業師如東開帳

○月十日より根津社地お在尔の上野尾天神開帳○月十五日より月忌林夫

尔本号開帳靈室を拜せむ ○三月廿日釜間巨山卒乃場橋の例不佳せり小川被

佛佛を好む由之をもちり ○四月朔日より滋谷金五八幡宮開帳 ○五月十八日富

本延秀世死中の名成務 ○五月本の元才在とりい人焼粉を再興今席を

設く焼粉へちのされ粉を焼く画く多濃浪自去ちて昔成りて画うが如く昔もあけり

○六月霖雨七月おきう本所深川辺洪水武州権現堂押切とりい

○七月十八日粗多師彦衣摺河卒七十石才格小島海助 ○七月廿二日画工董九如

卒号廣川居士法業 ○八月十二日儒師高原平行卒名流林八

○九月廿四日小石川山権現堂焚死名田宝常小尋

○十月十九日夜去時色方牛辺火燒亡 ○十二月廿日深夜方駒込火夜明を

亡寫中一冊藤山某 ○月十日根津門前番屋町焼亡 ○賤のそり丸成の草紙を連字

享和三年癸亥 正月閏

閏正月攝州東生郡九条村より白雉を献以 ○二月儒師岳東海卒名融稱

仲 ○三月四日暮六時区大地震 ○三月より清草五泉お使相長星持山妙純

ち祖師開帳 ○四月より六月おきう麻彦流仍人多く死つた

西より東一筋の赤雲横らる ○五月廿八日より下谷稻荷開帳 ○同日

浅草寺中梅園院より相馬大山麓秘泉より安親世吉開帳 ○六月朔日より
回向院より物光寺雷雷親世吉開帳 ○同日より浅草寺傳法院より信則
善光寺如來開帳 ○月十日より廿日の万本新一目辨才天開帳

○六月十一日小學者中澤道二年 七十九才 深川橋に
妙善寺に要り ○六月廿九日國學者大塚

嘉樹卒 格一才右馬 号蒼梧 七十五才
浅草本寺より不葬 ○詩人永系左葉卒 八十三才 名伴具孫 格才六
美濃中寺より不葬

○七月高嵩漢信宜程の圖を画く 浅草親善堂の外障小掲

○七月朔日より 浅草寺中金藏院より相馬大圓寺親迹如來開帳

○同日より永代寺より常陸國河波大杉大明神開帳 ○七月より本寺於

るよ水戸磐船入寺如信上人像開帳 宝物多し ○七月朔日より 浅草

寺内正福院より越後頸城郡尾多社大國主像開帳 宗居菴日の丸の
名号を掲せしむ

○八月折系櫻の例小報藏を建らふ ○八月谷中延命院住持日道傳律

や祀 巖科小巖せられしと云えし ○十月朔日伊豆大島焼二日江戸中

灰降 ○十二月挿花の飾並新秋乱を卒 八十八才 翌年七月門人小浅草奥山(碑せり
子松大人の文あり

○後の昔物落成 写本裏 てうののわらわち西東後江のぬしと云て
送わつて其の宝曆以来の風俗せまらる ○今年二月中旬より

浅草回園立花慶所下藩然吉太郎稿荷社利生何と云ふより江

并近在の老若系清羣集はるる駭 游り羣集なる後
朔日十廿廿日午の日開門之 型文化元年ふ

いり 経盤局 奉納物山の如く 道路より 酒肆茶店を列して 狹いが一

年ありて自然止む 是等の景紙一枚繪小唄の卒何年ありし文化元年也
画今の時「繪せむ」に於ては「文化元年」の由大郎の自序に於て

○群書類從板行六百三十六卷 掲載校輯表あり
此等より進み上本成

此年間の記事

小金井村の権寛政の以り 録する人もありし由 古松軒が四林地名録に記
しりしが 享和の以り 證人筆客多し集ひて 毎妻遊覧の如とあり

乃其の冊子一枚
多く刊行せり

王の流るるの河系々々花の雲江中や水のひびきあり 千巻

○せんりや 養老の今行る ○山東系傳曲直馬琴が漢本を双帝行れて

教篇を擇行す又系天板より画入漢本新化何中を擇行して江戸下等

之條江戸戯作者の式亭三馬六村園政盛小枝の教せんりや 感和亭泉武

十返舎一九振筆亭演海樓馬馬高井忠孝山せんりや 山東京山 芍葉亭長根

折多種考梅暮里各職神屋蓬舟南仙笑楚滿人東里山人東西茶

南北せんりや 其外多 京大板作者の要略之思卯合浦免月優々彼折浪文廣木の編色

合川波和松好夜中を流方川を秀速水其院未中折行あり其院未画入られ

仕組むるは 江戸浮世繪師の葛飾北辰辰政 後小敷戴斗又為一と改 歌川豊園

公豊廣 蹄舟小馬 雷剛 葉画を 盈舟北辰 関く樓小嵩 小亭 上子

葵岡北溪 ○北尾蕙舟畧画式と号し浮世繪の畧画を之とせし粉色摺

の粉本教篇を擇行し ○浮世繪師二代鈴木喜信といひ其の長傍小舟り

蘭画を學以後江戸小舟り世より名を司馬江漢と改む又銅板を日本

小舟り創せりも此人の功之 ○式以近山水の遠景を画す一枚繪を ○享和以来京傳の編り

近世奇祿考骨董集二部の隨筆世に於ては此種裁まありしを

戯作者各隨筆と何れも其の事始より掩れとも系傳の作小並ふり其れ

野鄙ありの多し ○原舟月雛人形の製を改て古今雛と名づけ世より

とせり ○享和中あやねる人葉嶋といふ人寺島村小松園を設け四時

の花を載り遊賞の所とあり奥州の人あり 江戸より世に於て

天保の始終あり 葉嶋如或人名つけて掃堂といふ文字をいそぐ改りたりは其れを

其の奇小 ねも引るも其れをいそぐ改りたりは其れをいそぐ改りたりは其れを

うきあつひのうきあつひもさかたに中々のおぼしき事ありしに 其海
岸のうきあつひは小ねひの袖にけりし事ありしに 自寛

何れもさかたに、おぼしきやうめはあやまきふ白

或人の流不地池の舊名を多雲屋谷といひ昔嘉民多雲三郎と清川南左衛門友三郎といふ新
の人住するありし事甚だしく白雲の流池泉ありし事

○地味子紙はれ紙多き出する ○数尾甲價次才不貴くありしに

質物の拵并を製以 ○藤繪の紙昔の紙を切枝竹串せ四つ刻て

矢羽の如くあきし紙焼小字し七五澤の糸乃姿を九尾の紙小巻し酒

顛童子を鬼あつひの紙を、何れも京和中都樂といふ若工キマン

鏡といふ目鏡を種くヒイトロ一輪色の繪を、何れも自立不働するの事

とて、何れも繪と号して見する是より、何れも長世にわたりし事あり

何れも、何れも多きあり 此は樂合の事、永元七年七月 ○山谷町八百五拾五郎が

料理は、深川土橋平清、下谷龍泉寺町の駐妻より文化年中より盛なり

文化元年甲子 二月十九日改元

二月四日より信通院内福要院大黒天并松号開帳 ○二月十七日昼は、何れ

西南より東小一白き雲出る ○三月朔日より深川八幡宮開帳 ○三月五

日より例書并大天開帳 ○三月より護國寺親世寺開帳あり四月十三日

画人北本堂の例ふ於て百二十尊の繪紙(半分の遠慮を画く

○三月十九日より圓向院より同某松久の靈宝開帳 ○小日向 大日 妙是

院大日如來開帳 ○三月十九日後藤氏十代桂繁 六十 卒 ○四月十五日

妻 ついでい 編為明林開帳 ○同日より浅草清水寺親世寺 六十 再帳 ○四月廿日

三日の乃十一代月中村勘三郎座あり 寛永元年より 嘉狂言與 八十二年あり

○六月朔日夕七時俄然大雨降霹靂大あり 此時、羽下あり 人々魂を飛 七女の子を空

中(卷上)翌日死後

○八月四日能人素健卒

二十五年河川
去信ち小集

○八月廿三日画人高嵩

谷卒

七十五才名一雄号房翁

○八月廿五日玄々一卒

字三才能徳を好し商人の徳家
奇人談の編あり谷中名久院に葬

○浅草藪の内南部駒の市毎年何り一尚年より止む是より後ハ所願主

藩内(若以)○十一月廿二日画工佐服寄雪卒

名貫多称倉次号中岳堂浅草
哲野中村名流小集以女也英之

号(小画) ○今年法園考熱之

文化二年乙丑 八月間

二月十五日より根津権現草北十二面観世音開帳 ○三月八日より谷中一

葉寺祖師開帳 ○同日より飛戸香取社境内より系於西鴨清涼山金

毘羅権現開帳 ○八月十二日より回向院より青山若光寺如來開帳

○八月廿二日より永代寺より玉川町神開帳 ○八月廿八日より飛戸東骨寺不動

尊開帳 ○二月芝神宮境内より勧進南力あり時八月廿八日自具行

日水引といふ角力取給の若と喧嘩不及四ッ車一人加勢一と大勢をねり

あつて開帳なる ○三月中旬より宮崎芝居機發あり出花の女あり

芝居主これに告北とて祝ふと云 ○四月朔日南井川海雲寺千解荒神

開帳 ○五月能師神田菴小知西國物群の柏戸小於て八十八齡の賀道を飾く

仙ハ沆瀣朝霞の氣を吸く長壽一我ら

有 雲や吾菴ひのき 花 小知

○六月七月ある ○六月十九日生妻村廻の川若徳ありし時人骨

出る事駭く是古戦場の有る下と云 の菩提なるは枯骨を

儀草筆籠と(ぬめ墓を築く)と詔能成就と云ふと云ふして七月より

系備群集なる事駭く ○八月七日最刻家島蒙癖卒

○八月廿七日儒師神谷東溪卒 ○十月十七日書画師

定河津定通年

此の如き事、不義以年母の人よて其尾為ふ
合客より一人あり、睡餘小録の編あり

○十一月深川三十三

間堂再建成る

聖年宮の二月
村始あり

○本曾法名所圖會持行

秋里蘇島甚
為村中画

○十二月廿五日画人井川雪下園卒

名貞孫源三清坂本也光也小
葬以

文化三年丙寅

三月より永代もあくる成田不動寺開帳○同月より濱玉もあくる河内の本

葛井寺

十二面
千子

親世寺開帳○三月三日江戸火西南より東北へ飛入

○三月四日昼九時の芝車町より火火坤裂風ふりて高橋田町の通り三

田薩呂家江谷浦本芝迎金校

傍上ちハ
巽隅斗

神明宮并門前田川町通り

左右出雲町竹川町通救急登橋河門内外本松町三十万坪本町系橋

より日本橋迄左右上下位より日本橋小ハ浜廣より常盤橋橋内月外堂町

本町通り西ハ深倉町より三河町稚子町柄本町船越橋陸連東ハ堀内

町新堂物町新松木町より堀町葺屋町并芝居高座ハ跡もあくる

富沢町橋町辺横山町馬喰町辺神田川を越へる久方町松永町

和泉橋江佐士町通り二味線極廣徳寺前町通りより本町江重裏通

近東ハ浅草河門外より新橋通り元寺越東本町より各徳寺の辺迄焼亡

此等小色され武家町家一字も跡も事あり翌六日の昼は時よりのり

て漸く焼亡り此時又高橋野焼丸長武里半幅平均七半備度藩邸八十三号

寺院六十名寺名有る神社二十餘ヶ所町救五百三十余町と噂ゆ又

焼死溺死千二百餘人といり於火ふけひく賊民正救の小屋十五名あ

建々あふ小憩いりぬ食物を給る時余の貧民も米積せあふ

此最途中
小ぬ物を
以て貧人或は物りひを奪りぬの有り又盜賊仍れぬ物をぬ往來の人を傷み
此火災の時の雜説身尾高の家衣ふくくある母り

○四月四日五日六日の月二夜三日回向院より火焼死の聖供養の事を

○二月の頃より品川宿橋向向 齋屋何某といふ驛舎の抱阪盛女今廿廿強 乃府中の長 といふ衣類針又つひより 無ん 六尺七寸容色より珍しくもその遊客多く世家日夜 警昌せり 後二年にて廢れ方以己の喜ぶを若狭渡船と改め浅草柳稻荷の向へ大女の力持と 号し看物み出さ其盛を以て流燭の灯を清く日本儀(華を以て)有て文字や 書ふと一り又あま 廣小路も出たり ○三月朔日より永代寺より相州鎌倉補陀落ふ勅書大日 如来文覚の像開帳英同より宮根山権現開帳 ○三月九日鼓傳若事仙矢 楚満人卒 楚公先陳 小英の ○三月十日より大塚後園を觀せし開帳 ○四月朔日より 湯島社地より大塚大慈寺見耕菴火防造酒地蔵尊開帳 ○同日より 愛宕社地より都築那折中村法島助神開帳 ○四月朔日より淺草八軒 寺町大仙より下総中山法華寺興院社師開帳と共小京都頂妙寺二天 五開帳 ○當夏兩國橋辺大川夕涼少 ○六月朔日二日大石金銭傾る如し ○六月廿日中平井村百姓交六といふりの逆井村の川面を蜆を取るとく

菘の内小日蓮上人の像を以て平井妙光より納む ○七月十九日より深 川浄心よりあき身延山七面明神開帳 ○五月朔より 猫死ねこ 事驗し ○八月朔日より二十日の日佛堂觀世音菩薩 今年法堂修復成る念仏堂のありて 坂根持元開帳 ○永志事波靜波堂 ちるを ○八月廿日より回向院より下谷通新町開通あつち 寺貫金觀世音菩薩 著 号 権山 谷西意より小英の ○八月六日算術師菟田權平定次眞卒 彌年小法一けり十二年より喧嘩を休むより 小今年よりぶらぶら出る童子の町に紫日記ふ ○八月十五日深川八幡宮祭禮 雨天より十九日不延る同日産子の町より踊り遊物未せ出せ江戸中ハ いふ不及近近在より見物出く是は時靈巖島の出いねり物永代橋の 東詰ををまうし時橋上の佳東謀眞群集の次中より深川の方より 三宮針を崎崩かきか たり以て崩れを治よりまらぬものもつるもする 事ありはい中より上より下より水は弱おと 助りし稀ありし川下のお

未あつ日々一の里の花の以て穢群集して佳氣を賞する一或のふよあともいふ

あれはよく咲く花の帝といふ日々の里とわたり

○四月九日御人相露庵を碑年 徳川氏之孫 光徳院小葬 ○五月十日より儀費大仙を以て終念

妙隆寺祖師開帳 ○六月初旬より雨勢く降り十六日より十八日連江戸

及近國洪水溢る米穀價甚一 ○六月念貞氏は救米抄せり一賜ふ

○閏六月朔日より日向院にて葛西半田福右衛門帳 ○閏六月二日御優尾

上杉歸 四十 日向院に於て昔の御優小を小平次が幽魂を吊りて施符鬼

を修せしむる群集はるる駭くあつて後彼を事と狂言も取組身行

ける小見物山をあせしととろくぬ事ありしと崇あふん事を忘れ其

后のいふさふ小を名を唱へて此れをせ催はるあり ○壬六月十八日より

廿日連大雨降再洪水溢る ○七月日向院にて野州那須野光助を玉藻

社開帳 ○七月廿二日夜小入雷少一鳴る六時々大雨盆を傾つが如

○七月廿五日昼九時より南大風雨家屋を損下怪赤人多く豆船楯船

七十餘艘覆り又酒船入陣絶て市中酒あり ○八月日向院小於て昨年

永代橋水死の非一周年忌法事修行 ○八月小のりても雨勢く降り七日

八日大雨江戸法園洪水溢る ○九月二日加藤子松大人卒 七十二才本和日向院 小葬

○十月芝金杉四珠を七面大明神拜帳 ○十月四日この日浴湯をれば壽

を減ト又即死するよしとて中夜入湯する事あり元文元年の以もかゝる

事ありしとぞ ○十月十日書家細井錦臈卒 名知雄孫右清の廣澤の孫あり 寺に力村法師が小葬

○十二月十九日書家藤田赤峰卒 名順祐郷右清の 藤田のりり小葬 ○藤田のりり小葬 せむむらひを中りせむむ

文化六年己巳

正月元日大風雪六時迄左内所より吹きて万町四日市小細所照降所

新校本町堺所葺金所為座芝居經波所方砂町元濱町辺武家方丈
多り為園業研究の舎跡小いり飛火して本町表町辺焼亡一夜九
半時終り○正月雨降る日烈風中て火多度あり○二月永代橋
新大橋大川橋交負人止る菱垣且松棧仲間引交不成り浪沙止む

○二月廿九日牛込火消金後より寄番町の系追焼亡武家方多焼亡

○二月十日八日善里妙隆寺祖師再修○四月より仍徳徳願寺跡院如來

開帳○三月廿四日約辺田宗寺にて八百座お七が百廿七回忌法事乃細雨降る

消羣集夥一寄葺ぬ名毎年林金龍七年八月約辺○四月二日儒師伴東藍田卒吉祥寺中洞新ち小葺以男の

教無岳より○四月より七月迄江の島本宮岩屋兼才天開帳あり江戸より

系諸縣一江戸より各才天開帳あり○五月六日儒師泉豊洲卒五十二才林齊太郎名也建

○六月六日より回向院より常州真登郡新玉町村浅草光明ち小葺以

開帳○六月廿一日官医柱川南周卒五十六才名國滿馬月能老人○六月初旬

葺加在交場村と院邊の和一本極くが花多々咲り江戸に見物人多り

○七月橋場林明宮の内にて武州沖嶽山家麻○七月十九日より本所

本佛ちおて甲州石和遠妙も祖師開帳○七月津川宜雲ち小英一

蝶の草塚を築碑を立る市野老彦文を撰一英一珪これを述る○八月廿二日夜

亥の刻より廿四日迄大風雨家屋を損る事夥く火の又の半鐘と吹落り

伊豆房徳漁人多く溺死り○八月卜者成回朝辰鈴々森八幡宮境内

小狸塚を築く○今年諸國豊化之○九月朔日より二十日の間牛込山

戸町南慈院兼才天開帳○浅草報恩寺回向所向より今の所へ移る

此所本所ちの地所廣がる○九月廿日詩人谷林鹿谷卒八十二才名幸備孫十

浅草深堂次郎画人文晁の父之○九月廿日儒師篠本竹堂卒名藤孫久二郎

○禰布日記三卷字本成

右田中畝先生公用予く
五河の辺に歴ありし時の紀也

○十月三日大雪十二月近解氷

文化七年 庚午

正月廿日より浅草大仏寺あり依波塚系根奉寺祖師開帳○同廿七日物産家

小野蘭山卒

八十四才三十七才五孫存内
浅草塚系系小茶屋

○二月廿日より川口善光寺如来開帳

○二月廿五日より平河天満宮開帳○三月七日より田向院より越後國下守寺

大日如来開帳○同十日より浅草玉泉寺あり深倉松葉谷長持寺祖師開帳

○同十五日石原徳水系大天開帳

同十三日より十九日近浅草唯念寺あり同廿一日廿七日
福池院泉寺あり四月朔日より七日近浅草祿念寺あり

下野高田山如来開帳○三月廿日以後寺不修より淨瑠璃橋竹本位太丈死

某院○四月朔日より浅草柳橋新明社開帳○同八日より深川淨土寺あり新

曾妙石寺祖師釈迦如来開帳曼荼羅を拜せむ○五月十一日狂歌師萩野

屋裏位卒

七十七才金吹所本位以形大座の表位といひ堂上あり
藤原の号ありしより深川法祥寺小茶屋

○六月十五日より田向院より

嵯峨清凉寺釋迦如来開帳今年八例より奉詣多し○六月廿三日廿四日白

金覺林寺あり清心公二百年忌供養開帳○八月朔日より護國寺あり信

明應光寺村元若光寺如来開帳

別當
産光寺

○九月十九日加茂遠塵秋卒

七十七才この
箱の瑞雲寺

蕙のつゝ丹書せ若く修文を以て佛像を画する人衣服が袈裟身も小寛政八年成就し一五
百羅漢木の像五十餘幅あり大典禪師を賞して他をれ一交りあり尚も小茶屋

○十一月十六日東本願寺御堂再建上棟の式あり

文化三年以後五年自あて成就せり
今日高清の男女未だより羣集し

供物飾物木目と巻の鏡斗りあり
梅梁と石塚志摩といふ

○此冬マクロの魚漁ある事夥し総豆ねの三初より

一日ふ一万奉せ獲るといひ○十一月十七日儒師諸葛琴臺卒

名蟲号鬚髮
下谷養玉院小茶屋

同 八年 辛未 二月間

奮冬よりあり候より正月十日大雪十七日大雪○正月廿四日昼四半時より

浅草茅町二丁目裏より出火表通りつゝ出火裏河原柳橋万八樓連焼九三

町ふ一町程あり早妻度く空より○二月十日颯風申刻市谷谷町念佛坂

荷裏通りより出火為小風強く砂浜河津川町より三筋町を越せしる福
寺唯念寺焼る○同刻赤川橋向より出火穀洲の辺と三筋境を

○江戸哥辭年代記刊行十五卷 立川馬馬作三津芝居の基立りの記録なり
今年より十二年迄迄と小下り行

文化九年壬申

二月十五日より羅漢寺とて岡山念持佛河津院とて東岡徳○二月三日より滋谷

長谷寺あり京清水と親世寺岡徳 糸清影一山岡徳
商人仮や形を列せり ○三月五日より洲崎舟

秋天閣徳○二月より池の妙音ありく佐渡一の谷妙照寺祖師岡徳○三月十四日

より押上春慶寺善賢井岡徳○當其木下川降光寺裏の通橋樹を多

く裁る○四月廿六日三島自寛卒 六十八才名景雄稱吉吉徳三島中一も小住必学和吉也
又徳吉あり滋谷新徳徳照寺小華次

○五月十八日より芝巻岩山より下徳徳寺あり 岡徳○月十八日儒師山本

北山卒 六十一才名信有稱徳六
小石川茶軒本念寺小華次 ○五月廿五日觀相名人石竜子法服卒○七月大水

不切不あり○七月八日法如英慶和上遷化 滋谷村宝泉寺小華次
世嘉 近世の祖徳之 ○八月廿七日

該化若市場通交終 滋谷徳云
小華次 ○八月末奉願寺中徳寺あり不越後徳島

寺宝物を拜せむ○九月葉鴨條井の徳本屋あり葉のをを以人地を數

何れとあり色々の形を造りて諸人ふりて江戸中の其後日毎小群集し

て見物しこれ八年毎小成並不あり九十年餘り不及文化十二年迄あり一が

まより後造物の止むり 武時葉の苗村葉内記徳徳徳の
數ありと不仍せり

○九月三日下徳岡相馬郡宿代宿百姓忠義娘とあり八丈あり男子を生子

恙あり○十一月四日八定時大地震 あく土瓦毀色用水桶の水を和りて流あり
赤川津茶川辺にて強直倒傾怪事あり

○十一月十七日書家田中功重卒 五十七歳
小華次 ○十一月廿二日夜五時色龍泉寺村より

出火南烈風きて吉原新町へ火移りまゝ一廓盡く焼亡りまゝより為水の

風小くより田町一巻小る乃百親言述一曰丸町山の宿の辺迄焚焼一川
越く幸新苗場所の辺少く焼る 吉原丁飯田町聖天町丸町山の宿三谷
深川小六を承あり翌年八月元地へうつる

○此秋芳洲町二丁目三丁目なる所の西の裏子小上水の隣りをして焼せり
ら玉衣を簾と号し一丈五六尺幅を写除り乃左右山を作り四時の花木
を栽り例小茶店をせし往來の人乃休之所とあり天保の始より廢せり
徳山より移るる徳の玉衣これより多てその名あり月の内 畠山人
りふそとるるも芳洲の言をきくまてうつりぬる徳の岩浪 縣鷹

○十二月十九日書家箕田牛山卒 号福慶麻布宗嚴寺小華以
長男に承敬吉名隣号株山と云 ○十二月巖

寒く為國川氷あり○十二月廿九日夜五時前桶町より出火西小別火風南傳
る町より系橋竹川岩金古町迄焼亡○此以カラシ糖といふ癩のくまより
賣街せり 蛇の目の故有る物歯せり菅笠せり網袋を背負ふ声ふ
カラシ下ウと叫ぶ声仍減る事形不舖と由せりまて程なく廢せり

文化十年癸酉 十一月間

二月二日夜九時三三河町式丁目裏通りより出火して武家方四軒程三河
町一丁目三丁目皆川町永富町松下町鎌倉町新草屋町乾焼夜明け
終る○同十五日夜亥半刻下谷所成道美田豊前屋の南隅を起り出
火烈風ふして石川廣所極むと吹越し一茶店の裏よりきて左右ふひろ
びり向例より仲町南例踏り以焼失池の端裏通り加倉屋長屋迄西に三枚橋
向料理屋松坂屋の例東に呉振店松坂屋の例と上野町山下迄焼る

○三月より浅草寺念佛堂より常陸麻呂太神宮不斷經所廣徳寺赤童子
園地○三月八日より池の妙音寺より二の江妙珠寺祖師園地○三月より隅田
川本母寺本寺若梅若丸像園地○三月菱垣止松橋仲間十組同座株式
定る この時の人数
千九百九十五也 ○三月廿日より火久保西向天満宮園地○四月朔日より今
戸八幡宮園地○五月九日より浅草寺先本覺寺祖師園地○夏芝慶岩山

死龜沢町にて侍入室中不火上三ツ度 ○正月十四日曾時八代洲河卷より出火

○正月廿五日車工松田龜五号清風被服通土物店卒 ○二月保川砂村元八幡宮

より午前四五時の若雅木の八重橋を裁ふ毎妻遊観多し

○二月二日より十五日の若河崎弘法大師開帳 ○三月朔日より永代まで成田

不動尊開帳御願大施灯米俵造り物不難くあり此時より甘納 ○三月三日より日向

院より中總中總村第師より不動尊仁王尊大九尺開帳 ○三月六日夜大雨大

雷不おろ踏止 ○同八日より押上法恩より永奉國を祖師大基天皇諱女秋

首法正名個彩燈開帳 ○三月十日書家佐野東洲正定寺小葬卒 ○三月十八日名個彩燈六十日

の若法親世名個彩燈開帳外境内の神仏 ○同廿日より所

舞八幡宮より秋秋父子権現開帳 ○四月朔日より淡谷金王八幡宮開帳

○四月朔日神田平塚町小折所より大サ九尺計りある鈴下谷正法院稲荷明神開帳おて造り丸の額と縫の額とを納む細小人

舟月の門浅草小舟にて彩を用ひて ○同日より浅草金花院子安親世舟水あり自茲自茲不不佛佛のの臺臺とと見見せせとと見見

○同日より中野宝仙より不動尊開帳 ○同八日四谷新橋子安稲荷本比十一面

観世音開帳 ○同十九日より西新井弘法大師開帳 ○四月より七月中旬江戸

及徳国大旱魃都下門小舟舟を建てて疫を祓ふ ○六月十八日百瀬流筆道の師耕

元卒長種耕雲門あり今年七十八才赤坂法ある ○七月朔日より日向院より河州

壺井八幡宮壺井権現開帳 ○七月系於上香羽村桂娘名代何某官許

せ好く勅化の為武家町を巡行す ○七月より徳本上人小石川

傳通院より徳人小十念を授くる号穢の系諸筆集聯

○秋護國寺親世音開帳弟新祥 ○十月廿日夜上野所本坊火 ○十月書家

田中玉峰名お則卒 ○十月林収茂浅草より奥山本を謎坊本を主と本を小若知板を

の盲坊主の盲坊主をを産産小小ありありてて見見物物よりより繼繼ををけけききををてて即即夜夜小小若若解解ははささるる時時ハハウウカカルル人人小小若若ととああるる

相公梅澤吉妻控現閑情 ○同日より不忠他無天内少上明新田医王旭
 某師如來之修 ○同日より同志齋茶師如來閑情 ○四月朔日秋野磨谷為平
 於谷磨磨の修教天愚乳年と号し俗稱其内と云雲丹度の更及之形年百才下谷茶茶を以義以神
 佛千社ありと号してこれを強ふ小幾年のうら刺先を付て數十天のち接の冠根と云ふも亦くその
 子又以今より始りての寛政の以より始り天保の以より始りての保盛の以より始りての村籠の以
 より始りての寛政の以より始りての保盛の以より始りての村籠の以より始りての村籠の以
 よりこれと号す ○四月十七日官医松田元伯卒 七十八才名松田元伯 其子下天徳も小茶
 完来卒 七十 ○五月四日官儒古川精里卒 七十八才名松田元伯 其子下天徳も小茶
 江戸若松五久早 ○八月九日官儒岡田寒泉卒 七十一才名松田元伯 其子下天徳も小茶
 算術の師會田算九湯門安形卒 七十一才名松田元伯 其子下天徳も小茶
 降福瑞浩十寸見沙海死 山谷茶茶院小茶の死後始りて 七十九才名松田元伯 其子下天徳も小茶
 市中雷鳴の如き響きて光り物室中を飛ぶ 武久皇子横山宿の細中一茶の
 長三尺幅七尺厚六寸秘傳りる石也

此年間に記事

文化の始より浅き者七月十日の四方六千日糸赤き蜀黍を雷除とて商
 ふり始り ○浅き者奥山之社控現の店一人磨の社を建り社辺小山次萩の歌を載
 景色を造り ○日暮村小富士山を築く ○日暮里青雲寺の布袋此巨像を
 修性院に移す ○和合神の画像を作り始り 其國人の知る迄の近以迄其寺に在る修性院の
 板小多あり画と題して和合生万福日進太平
 錢隨亭高孝書系草古北國と有り貴人も常小本小掛られり大槻平次平 漢が修性院に行り以修性院
 柳松小和合神の事と有り其法は其の山拾得ありといひつゝ一若くするや月人の瓊浦華話
 小載せり又清人蔣士詮の忠雅集小画和合神の詩ありて之を寒山拾得の二人の事とせり荆山先生の
 編輯燕居雜話小ありしなり
 ○叶福助といふ泥塑人を作りたりて之をせり 其の昔より有りて其の三年二箇女小對
 ○江戸坂田郡國友村鉄炮船治國友藤吉清能高といふ人茶茶の醫師山
 田大園小流り蘭人推考其の石の鉄囊中一風を籠め火薬火繩を用ずして
 風の勢を以て放つて鉄炮一別小彩をせ加へ之を凝らし風飽又火繩と号し
 て製し始り 蘭名ウインドルウルと云文政の末より其の製する者小茶製法のりあり

○文化七八年の以より石菖蒲の畧子と玩ぶ事盛なりしれ嚮ふりし揚小倍一
 其様これを賞玩し 所謂石菖三種黒菖金虎類初春生及春老有極川正宗浦島
 聖山虎の巻袴雪質夜天下天舞俄通縁青葉廻入ると思ふの各りり
 ○此の代名家△儒家山本北山龜田鵬翁太田錦城朝川善庵△詩市河
 寛齋大窪久民館柳湾業地五山△書輪池屋代翁中村佛房後辺
 東河恭星池関克明松本竜澤董堂致義中川由美二井親孝
 △狂哥其款蜀山人六樹園 文舎 蟹子丸 三院雁法師千首楼堅丸鈍之亭
 和橋琴通舎英賀△俳諧林田房小知眞麦自然堂風朗不随舟成美八采
 園菖松田喜庵漢物小簍庵碩嶺△画村野伊川院法平 同晴川院
 法印同素川朝信抱一若谷文晁門文一依田井谷英一陸長谷川雲且
 鈴木南嶺大長雲峰春木南湖△鑄物師村田整民△碑碣彫刻窪世
 祥△金形工戸流富久△刀鍛冶水心子正秀手柄山正重大慶並胤

△蒔繪師原更山 羊遊 坂内寛哉△浮世繪葛飾戴斗秋川豊國月島
 廣門國貞門國丸啼高北る鳥居清岩柳々居辰舟折川重信泉守 澤名
 深川柳堤等琳月磨菊川英山勝川春亭門春庵在冬川美丸△花形と
 いる俗根の手形乃る○神乃藤敷岩田伴勢義龍久部日向乃る
 ○雨々屋取和年々小減り○角能人八十島富五郎不白の門小入て茶事々
 ようく根岸 根岸 根岸田光寺庭中長廿七尺横四尺餘の菴あり一株の名樹
 あり文化の以迄の盛の以迄下の露人々小集ひ一か惜む下文政始の以迄
 果々○尾久村深山玄琳といふ人の園中小牡丹数株を栽置花の以
 たる物多かりし文化中より絶り○文化の末大坂の竹本洋堂も大江
 戸あり標度小松を養れをせり 文政中近江戸小 ○立川馬馬落唯一の庵を
 起以三尖亭可樂朝麻坊愛樂出て跡盛小乃る○狂言橋の模様遠明紙

子の種椽又伊豫漆といふ漆物を有る 伊豫漆といふは兼比一なる名あり ○文化の始より厚は

紙仍る豆州製海旅舎の何より今井某これを製し始り戸出く高りむ

○和製扇紙始 檜舟の人朝正が後樂通称中川依右衛門といふりのくまか一若母の紙扇あり下白登所不徒一文化三寅年某 官研を以て後文政十三年

深川之扇徳小彦地を賣求て考これに製せめて世より又後十有様立るの紙を製しと案兼紙と号し天保元年亥十月十八日あり

○ギヤマンの洗器物を製し始む其製扇末のり此ふるより ○琉球扇をわ

り出さす ○居風呂の鉄炮小火を焚て湯の中へ金魚或ハ鯉の魚をさか

して居せ物と云ふ國談芝洲花事小あり

○砂村王地稻荷社へ麻痺を患ふるもの形取して実験を講るよりあり

系譜を有る事始り

武江年表卷之七終

